

地域に伝わる伝説や民話、文化財などを紹介

# にしあいづ物語100選 その95(その③)

## 会津戦争と農兵

文：田崎 敬修

実戦部隊は村役人の子弟・釜元<sup>かまもと</sup>(和ロウソクの原料となるロウを絞る元締め)・猟師などですが、山三郷では猟師が非常に多いことと医師が配属されていること、野沢組には自分から希望して農兵になった有力商人が含まれているのが特徴です。

野沢代官所では農兵隊編成の行われた慶応4年(1868)3月に、什長や代官所役人に稽古を行うことを命じており、4月になると農兵隊を3隊に分けて1日・8日・15日に鉄砲の稽古日を決めたのですが、野沢代官所は4月7日までに、津川代官所では15日までに貸し出していた鉄砲の返納を命じています。実戦用の鉄砲が不足し、貸し出している余裕がなくなったのでしょう。鉄砲は1挺につき1両の貸し賃が取られていたようです。この鉄砲は会津藩の主力銃であった1発ずつ火薬と弾を筒先から詰めて撃つゲベール銃と思われます。

『会津戊辰戦史』によると農兵の制度は塹壕や橋、道などを作ったり軍需物資を運んだりするために農夫を集めるものであり、実戦で活動することはまれだったようですが、いくつかの実戦参加例があります。

- ・慶応4年7月3日、赤谷口に野沢組農兵42人が一時残留。
- ・7月29日、太夫浜に上陸した新政府軍との戦闘で農兵の山本栄三郎(定平)と渡辺忠左エ門が戦死。
- ・8月27日、津川守備の会津軍が城下に撤退する時、上田伝治配下の兵30人と野沢組農兵隊、猟師隊20人が車峠で新政府軍を迎撃するも逆襲されて敗走。
- ・9月2日、宮野村肝煎(猟師)の矢部政左衛門は奥川に進軍した新政府軍を迎撃する会津兵の道案内役を務めていたが戦死。

これらは戦闘員としてではなく補助員として参加していたのだと思われます。戦闘部隊として活躍した農兵隊として屈強な農兵で組織された正奇隊や芦名時代の河原田家の家臣団の河原田精神隊などがありました。ともに正規兵に劣らない活躍を見せています。戦闘能力の高い猟師で編成されたと思われる猟師隊も日光口や越後口宝珠山で活躍しています。農兵は実戦に隊として参加した場合もあれば、個人的に参加した場合もあったようですが、その例は多くはなかったようです。農兵は他藩でも存在し、明治時代以降の国民皆兵の徴兵制度の先駆けだったのでしょう。

太夫浜で戦死した山本栄三郎(定平)の墓(常楽寺) ▶



ある日の夕暮れ。  
思わずパシャリ。



8月に入り、本格的な夏の暑さを感じる日々が続いています。皆さんは夏らしいこと、しましたか？

花火大会やお祭り、海水浴やバーベキュー。暑い夏ならではのイベントが盛りだくさんですね。

私はこの夏、人生初の流しそうめんにチャレンジしてみたいと密かに思っています。良い竹、あつたら教えてください。(三留)

編集後記